

第2回 第二次いわき市都市計画マスタープラン等策定委員会

議事要旨

■ 日時

平成30年2月16日(金) 14:00~15:30

■ 場所

いわき市役所8階 第8会議室

■ 出席者

・ 委員 (19名)

・ 瀬戸委員 ・ 齊藤委員 ・ 蛭田委員 ・ 林委員 ・ 石井(敦)委員 ・ 越智委員
・ 武田委員 ・ 鈴木委員 ・ 安島委員 (代理: 里見氏) ・ 青木委員
・ 門馬委員 ・ 吉田委員 ・ 佐藤(光)委員 ・ 佐藤(孝)委員 ・ 石井(重)委員
・ 田中委員 ・ 坂井委員 (代理: 小谷野氏) ・ 半澤委員 ・ 森藤委員

・ オブザーバー

・ 福島県土木部都市計画課 課長 諏江 勇

・ 事務局

都市建設部都市計画課

・ その他

報道関係、委員随行者等

■ 会議の流れ

1 開会

・ 司会より開会の宣言

2 協議事項

(1) 第二次都市計画マスタープラン

全体構想(案)について

・ 事務局(都市計画課)より説明

(2) 立地適正化計画

まちづくりの方針(ターゲット)等(案)について

・ 事務局(都市計画課)より説明

3 その他

次会委員会は、今後、事務局より提案

4 閉会

■ 委員からの主な意見と事務局の考え(要旨) ○: 委員 ⇒: 事務局

- 基本理念のキャッチフレーズについて、20年前の都市計画マスタープランとあまり変わらないという印象をもった。また、中山間地域の問題については、やむを得ないことだと思うが、将来都市像に「主要な拠点(恒星)が輝くとともに、周辺都市」云々と記載しており、言葉としては分かるが、20年後のいわきを考えた時にピンと来ない。
- 策定の視点2の「安心・安全の防災性の高いまちづくり」について、震災以降、だいたいこれに向けて尽力していると思うが、コンパクト化しながら、これが2番目のテーマでいいのだろうか疑問を感じた。
⇒ 震災の教訓を活かすべきという考えと長い目で持続可能なまちを作っていかなければならないということもあるため、力強いまちを作る意味でも防災性という視点として挙げた次第である。
- 視点②の安全・安心について、基本理念、将来都市像及び都市づくりの基本方針にどういうふうに反映されているのかが不明。例えばBCP(事業継続計画)ではないが、震災があった後でも物流を止めないとか交通を止めないとか、そういうことも盛り込んでいるという理解でよいのか。
⇒ 視点②の安全・安心については、基本理念の中では、「都市環境の質的向上」の中

で、安全でコンパクトな市街地形成というようなことで謳っている。また、都市づくりの基本方針でも4つ目の安全・安心というところで意識しながら、これから書き上げることとしている。

- 超高齢社会で、多死社会に入っていく中で、医師、医療人、介護職不足の市において、効率よく医療資源を活用するためには、救命のため、新病院に搬送すべき患者なのか、それとも地元で穏やかに看取れるところまでケアを続けるのかというものはある程度しっかり分けて考えていかなければならない。

恒星と惑星というような形で美しく並んではいるが、実際にどういうイメージで医療の提供を整理していくのか、どう具体的に医療資源を落とし込んでいくのか、イメージが分からなかった。

- ⇒ 今後、地区ごとのきめ細かな医療については、庁内の部署とも話し合い、都市計画マスタープランに表現できないかもしれないが、関連する計画で整理していくべきものと考えている。

策定委員会と同時並行的に庁内の連絡会議を持っており、そこに地域医療課も入っているため、そういったところと話す予定である。

- コンパクトシティ化による効果の例について、「行政コストの削減」とあるが、この計画に行政コストの削減をする見通しがあるのか。

- ⇒ 本市は中核市の中でも公共施設が多く、今後、人口減少下においては、維持していくことが困難となる可能性が高い。今後、行政の施設を集約するメニューを立地適正化計画に入れることが考えられるとともに、公共施設等総合管理計画の方でも、各部署が個別に施設の収斂を考えているところである。

- 重要なのは、人口が減少する中、その人口で都市を考えるということになってくる。基本方針に合わせ、他部署で行われている事業と連携を図りながら、人口が減少しているという数字に合わせた具体的な施策を見直していくというところにきちんと焦点を当てていけば、絵に描いた餅にならずに進んでいくと感じた。

- 立地適正化計画における課題「過度に車に頼らない日常生活の確保」については、生活交通だけではなく、産業も含めた中で対策が必要になってくる。例えば、好間工業団地は、朝夕の通勤ラッシュ時は車が非常に多いが、そういったところを公共交通に変えていき、それが結果的に、そこを通過する方の一般の生活交通にも影響していくこととなるものであり、日常生活だけというふうに捉えることなく、産業を含めた全体で捉えていただきたい。

- ⇒ お考えの内容を、念頭において検討を進めていきたい。

- 若い世代の流出を止めるということは、これから先、非常に大事なことになると思うが、事例にもあるとおり、他の都市もいろいろ若者対策を行っているところであり、市においては、具合的な施策案はあるのか。

- ⇒ 庁内各部署と連携し検討を進めているところであるが、現時点においてはお話しすることができる状況ではない。

- 第二次、第三次産業の回復については、回復していくことが一番あるものの、これから20年後、人口が3分の2になることや、復興の特需が終わって、今まちがだいぶ静かになってきている中では、回復は恐らく不可能である。何か違う意味合いで伸ばしていく雰囲気にしていかないといけないと感じており、回復という言葉に違和感がある。

- ⇒ 回復という言葉については、今の既存の産業+新たな産業を興して少し上向きにしたいという思いがあります。別途、違う言葉があれば、御提案頂ければと思います。

■ 会議の様子

